

瀬田川ぐるりさんぽ道

Setagawa River Promenade

散策路マップ

鳥居川水位観測所

明治7年(1874年)の観測開始以来、令和6年(2024年)で観測開始後150年を迎え、今でも毎日観測中です。

現在の琵琶湖水位は、5地点の観測所の平均値ですが、平成4年(1992年)までは、この観測所の観測値が琵琶湖水位として用いられていました。



瀬田の唐橋

日本三古橋の一つで、近江八景「瀬田の夕照(せきしょう)」としても有名。また、「三上山のむかで退治」の伝説では、唐橋を渡ろうとする俵藤太(たわらのとうた)が、大蛇に変身した竜宮の姫にこの橋で出会ったといわれています。



大津放水路

洪水被害を防ぐために造られた「地下トンネル式放水路」で、大津市南部を流れる3つの川の水を瀬田川へ流しています。地下20~50mのところを造られていて、トンネルの長さは約2.4km、大きさは直径約10mです。



石山寺

「源氏物語」の紫式部で有名なお寺で、1250年前に建てられました。また、境内には明治時代に琵琶湖の水害を防ぐため、瀬田川の浚渫工事(しゅんせつ：川底を掘ること)に取りくんだ7代目滋賀県知事の大越享(おおごしとおる)をたまた記念碑があります。



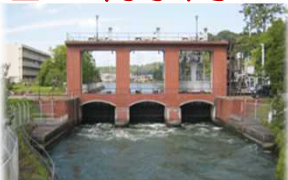
南郷ほたる橋

瀬田川ぐるりさんぽ道では最も新しい平成27年2月に完成した長さ110mの橋。瀬田川の見晴らしも抜群！橋の名前は一般応募から選ばれました。



宇治発電所石山制水門

ここから瀬田川の水をとって、「宇治発電所」で水力発電に使われています。



瀬田川洗堰

昭和36年(1961年)に完成した2代目の洗堰です。水門は全開・全閉ともに電動で約30分で操作できますが、開け閉めの際の巡視や点検などは今でも人の手によって行われています。琵琶湖・淀川流域の人々の生活を守る重要な役目を果たしています。



西光寺

明治29年(1896年)、琵琶湖のまわりで約8ヶ月の間浸水する水害がおこったとき、鳥居川水位観測所では今までで一番高い水位の+3.76mを観測しました。西光寺にある石標は、この時の水位を今に伝えてます。



唐橋流心水質自動監視所

滋賀・京都・大阪・兵庫の暮らしをささえる水が安心してつかえるように、この「水質自動監視所」で、瀬田川の水質を常に観測しています。



雲住寺

「三上山のむかで退治」伝説で、むかでを退治した俵藤太(藤原秀郷：ふじわらひでさと)を供養するために、瀬田の唐橋の近くに建てられました。今では、瀬田の唐橋の守り寺になっています。



大日山

滋賀県で一番低い山(標高約129m)です。奈良時代の僧侶行基(ぎょうき)は、琵琶湖周辺の水害を防ぐため山を削って瀬田川の流れをよくしようと考えましたが、流れる水の量が増えると下流で洪水がおきやすくなることを恐れて断念しました。その後も山に大日如来をまつて「山に手をつけることたたりがある」と言い伝えを残しました。



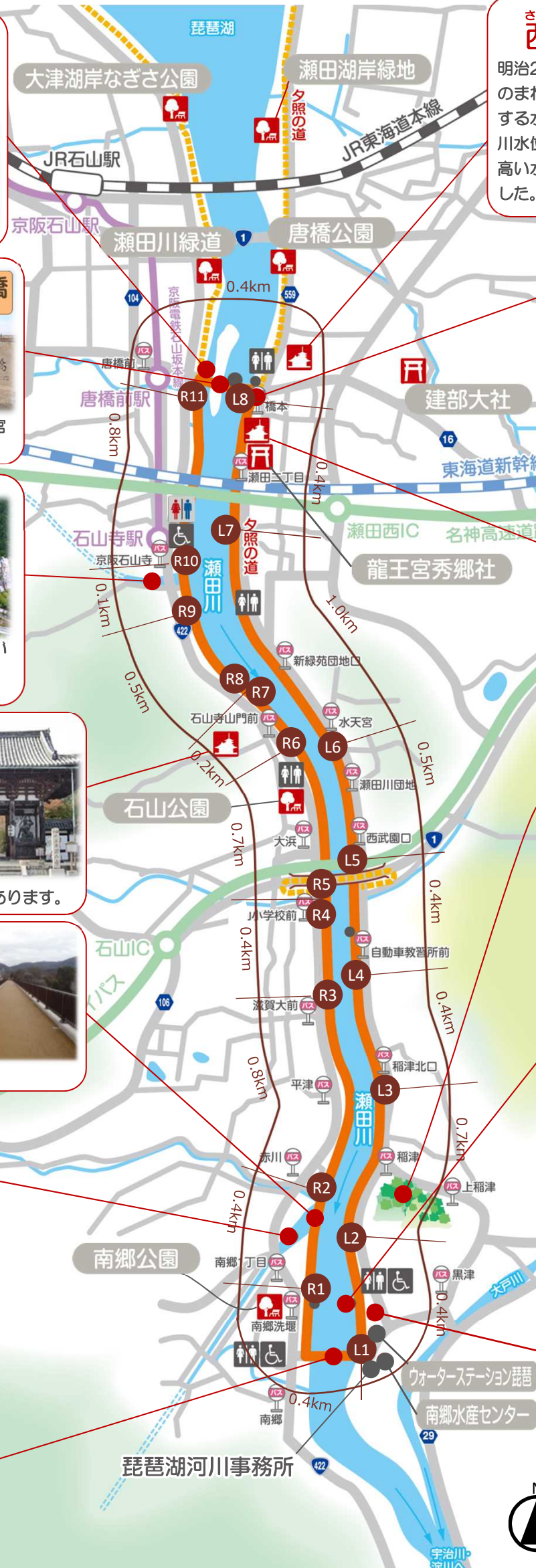
旧瀬田川洗堰(南郷洗堰)

明治38年(1905年)に完成した初代の洗堰です。洗堰の操作により琵琶湖から流れる水の量を調節していましたが、人の手作業で角材を上げ下ろして水の流れを調整するしくみなので、全開に丸2日、全閉に丸1日かかっていました。



水のめぐみ館アクア琵琶

琵琶湖の水位管理を行っている瀬田川洗堰の歴史や役割、琵琶湖総合開発事業等の模型やタッチパネルなどを用いて紹介しています。また、「学習映像上映」などもあり、年間約13,000人が訪れます。令和4年(2022年)で開館30周年を迎えました。



- 瀬田川ぐるりさんぽ道
- L1 サイン番号 0.4km サイン番号間の距離
- その他遊歩道

瀬田川ぐるりさんぽ道は、一周すると8.5kmです。

【問合せ先】国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所 流域治水課
 ☎520-2279 大津市黒津4-5-1 ☎077-546-0844(代表)